

## マデイラのブドウ産地

ブドウ栽培の風景は独特で、険しい山岳地形、起伏の多い土地でおこなわれているという特徴があります。特殊な地質条件（火山性土）、海に近接していること、気候条件、独特の製造方法がワインの比類のない独特な性質に寄与しています。

ブドウの栽培は、マデイラ島、ポルト・サント島全域で行なわれています。マデイラ地域指定優良リキュールワイン（VLQPRD Madeira）、マデイラ地域指定優良ワイン（VQPRD Madeira）生産のためのブドウ畑が全部で約400ヘクタールあります。

ブドウ栽培の主要な市は、南岸に位置するカマラ・デ・ロボシュが約125ha、サン・ビセンテの122haとサントナのおおよそ82haいずれも北岸に位置します。

## 地質

火山性土の主流は玄武岩です。一般に粘土質で、化学的に酸、有機物、マグネシウム、鉄に富み、カリウムが乏しく、燐を十分に含みます。

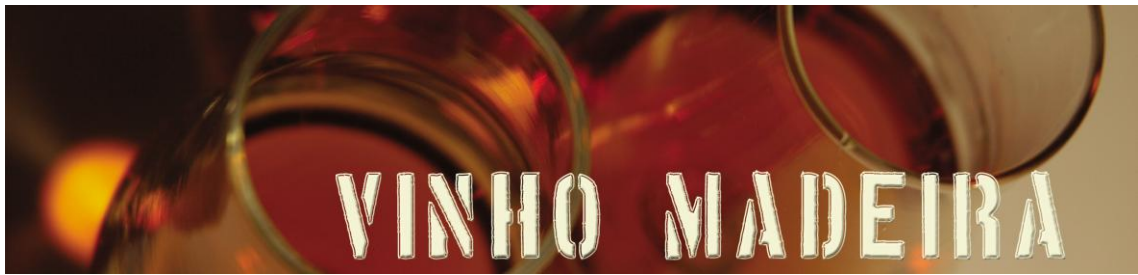
## 気候

マデイラ島の気候は、その微気候に特徴づけられ、夏が熱く冬温暖です。ブドウ栽培地域では、ブドウ栽培の上限である北岸から、標高150m以下の南岸まで進むにつれて、亜湿潤気候と湿潤気候から乾燥気候が見られます。

降雨量では、年間平均雨量が、標高の高い地域3000mmと、海に接した南岸で500mmの間です。

秋冬には、通常、年間総降水量の約75%の降水があります。

春には雨は少なく、年間総降水量の20%以上で、夏は5%以下です。降水量は標高が高くなるにつれ増え、この傾向は南岸でことに顕著です。



### **地形**

島の総面積は732 km<sup>2</sup>です。このうち大部分が25%以上の傾斜地です。平地帯は、フンシャルの都市・副都市部、気候や標高が農業を営むのに不可能な地域に見られません。傾斜が16と25%の間の地域に農地があり、玄武岩の石壁で支えられた《ポイオシュ》と呼ばれる段々畑を建設することでのみ可能で、マデイラの農業風景をよく特徴づけています。

### **灌漑用水**

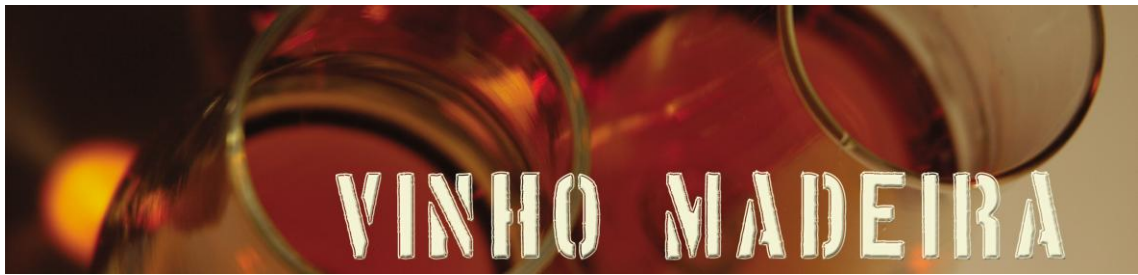
マデイラの灌漑用水は、高所で汲み上げられ、《レバーダシュ》と呼ばれる水路で島中に導水されます。この《レバーダシュ》の建設は、15世紀後半の島々の入植当時に始まり、現在、このシステムで、40 kmの地下水を含む、約2150 kmの水路が建設されています。

### **ブドウ栽培**

マデイラの風景とブドウ栽培は切り離すことは出来ません。切り取った小片からなる、はぎれのじゅうたんのように見えます。ブドウ畑は大きな斑点のように私たちには見えますが、それぞれ数十の保有地に属するので、それほど注意深くなくても間違えることはありません。栽培面積はおおよそ0.3ヘクタールで、一箇所よりも多く点在しています。

この小さな段々畑に造られたブドウ畑では、機械化がほぼ不可能で、ほとんどの場合、栽培の全工程、剪定から収穫まで、手作業を要します。

最も伝統的なブドウの木の**植樹方式**は、《棚》(ペールゴラ)です。この方式では、ブドウの木を、杭に針金を地面から離して吊って這わせるので、ブドウの木の手入れのすべてのプロセスも、収穫も困難です。棚の高さは、1~2 mで、植樹の濃度は1ヘクタール当たり2500~4000本です。20世紀後半、それほど傾斜が急でない土地にのみ使用できる、**垣根式**の植樹方式が導入されました。ブドウの木の、この垂直



方向の植樹方式は、1ヘクタール当たり4000～5000本の植樹の濃度に使われています。

**剪定**は2月の末から3月にかけて行なわれます。一般に北岸部のブドウ農家は2月末に、南岸では3月の後半に剪定を始めます。それ以前にも、収穫後11月以降に、伝統的に、剪定に必要とならないサルメントシュ（つる）を除去する作業を意味する、地方の慣習の一つである、イシュポルドラが行なわれます。

8月中旬から10月中旬にかけて、荘厳な儀式にて**収穫作業**が行なわれます。収穫のすべての工程は、急な山岳地形、ミニフンディオのシステムのため困難を極めます。農家の人達は力を結集します。現在もすべて手作業で、男性も女性も若者たちも収穫作業に参加します。、親戚一同が集います。ブドウを摘み、箱に入れて（容量50kg、ブドウがつぶれ、不衛生になるのを防ぐため）醸造所に運ばれます。